

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の一員として生活して行ける様、町内の行事等にも参加出来る様支援をしている。又ホームの、行事等にも来て頂ける様配慮している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が出入りしている場所に掲示し朝夕の申し送り時に理念、職員の心構えを独自で確認をしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	小佐野町内会に加入しており毎月会報が届いている。スポーツ大会の応援や盆踊り等の行事に参加している。又ハイムののんびり通信も配布している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地的に気軽に立ち寄る様な条件でないので買い物、散歩等の機会を捉え声がけをしている。又併設の老健にボランティアに来た時に声がけをしている。行事等で町内会の婦人部にお手伝いの要請をしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域町内会の行事等への参加や、ホームでの行事に参加して頂いている。入居者には町内会便りの会報を読み聞かせている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティア活動にて、入居者の対応の仕方等介助方法を指導している。今後地域との関わりの中で、身近な事から取り組んで生きたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で各自自己評価に取り組んでいる結果は、職員会議で良いと思われることについては継続し、その他は改善に向けている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催時にその都度検討事項等意見の交換を行っている。参加している方々より色々なアドバイスや、又町内会の要望等も会話の中に取り込まれている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族会開催の要請をし参加している。又市の開催している敬老会等に参加をし、入居者に良い思い出になる様支援している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	5月まで入居されていた方が、利用していた為職員は理解している。又今後必要な入居者が出た場合は支援をしていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に日常的なニュース、新聞等にも気を配り、職員間で話し合いをもったり注意に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居の際、十分な説明を行い理解を得る様にしているが、面会時に等その都度家族の不安、疑問等の確認を図っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市の介護相談員が年3回来訪し入居者との意見や会話の中から相談員が感じたこと等を参考にしている。又日常の中で職員には話せない事等を聴いて貰う機会を活かしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月居室担当の職員がハイム便りと称して月末に家計簿写しを送り家族より確認印を頂いている又面会時にその都度報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議時や家族会等で、意見を出して頂くよう説明をしている。不満、苦情は管理者が併設のせいとつ記念病院やフレールはまゆり内にある投書箱を設置しており、岩手県グループホーム協会や、地域包括支援センターに申し立てて頂くよう説明をしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は常に職員に対し、提案や意見を会議や、その都度聴きコミュニケーションを図れるよう心がけている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>自由な暮らしを支えるために、職員の体制を整えているが職員が限られているため充分とはいえないが、その都度勤務調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には職員は固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。法人内の異動がある時は、配属までの間に何度もホームに顔を出して貰っている。入居者にとって馴染みの職員が継続して行ける様な体制を心がけたい。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>岩手県グループホーム協会の研修会や、併設の介護老人保健施設の研修会や、岩手県の研修会に参加している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の研修会を通じて、他のホームの見学したり、交換研修を行ったりし、質の向上を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人や併設施設職員会の行事等で、色々な催しや懇親会等に参加をし気分転換が出来る様配慮している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の健康状態勤務状態等把握している。又介護福祉士の資格に取り組んでいる職員に習得の向上に努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の方の困っている事や、利用者がどの程度受け入れられているか家族より確認をし利用者個々の、体調や感情に配慮しその都度良く話を聴き、納得して行ける様対応している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居する事で家族はある程度不安は、解消することが出来るが入居者に納得させることが困難になった時は、ゆっくりと話を聴き安心できるよう対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けても満所で入居受け入れできない場合、他のホームや他の施設、在宅支援センター等を紹介する様対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者と家族が見学したり、又併設のデイケアに来ている時に訪問したり、入居者とお喋りしたりしてホームに馴染めるよう対応している。又家族よりバックグラウンドの聞き取りをし、その旨考慮しながら日々の日課等様子観察し工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のケアの中で言葉や表情を観察、確認をし支援する側、される側を意識せずお互いに協力しながら、和やかな毎日を過ごせる様支援している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や、職員の思いを伝えることで、本人を支えていくための協力関係が築いて行ける様努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	各家庭の状況、遠方の家族の対応等、決して本人中心に物事が進まないことを、理解をしそれぞれに無理の無い様見極めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力や今まで通ってきた美容院の協力を得て、馴染みの関係を途切れさせることが無い様に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各居室を訪ねたり、玄関外のベンチ、座敷、ソファの利用により仲良し同士過ごせる様努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入居者が退居しても必要時は、気軽に訪問する様説明をしている。又現在も以前退居した入居者の家族が、時々季節の挨拶等に立ち寄っている。</p>	
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、本人にとって最良は何か、入居者がその人らしく暮らし続ける様、家族と一緒に検討している。日常生活の中で入居者、一人一人の観察に充分配慮し取り組んでいる。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>日常生活の中で、本人がこれまでの暮らしぶりを聞き取りしたり、入居時にバックグラウンド用紙に記載して頂き、又担当の居宅の介護支援専門員と話し合いを持ち、理解把握に努めている。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>食事、体操、掃除の時間以外は特に決まったプログラム等は設けず、一人一人の状況を見て無理なく暮せる様にしている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃の関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞き、入居者一人一人に沿った自分らしく暮らせる様、具体的に介護計画に留意している。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者及び家族の状況の変化に応じて、計画を見直し、立て直しその旨報告している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者が日常の介護を記録しているが、特に見守りの必要な入居者に対しては、細かく記録連絡を徹底し、3ヶ月の見直し等や計画に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の健康状態等に応じて通院等必要な支援を行っている。又個々の満足を得られる様、本人の状態に応じたケアを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮らして行ける様に、町内にある警察や消防署、小佐野地域生活応援センター等に広報での案内や楽山会の、集まりのある時に口頭にて支援を要請している。小佐野町内会の婦人部の方々には、行事等にボランティアして頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前は骨折し長期臥床となった入居者に対しての、サービス事業者を利用したことが有り、今後もこの様に起こった際サービス利用をしていきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	以前は権利擁護を利用していたが、現在は該当者が無く又センターとは運営推進会議等、介護保険の認定調査の際にもアドバイスを受けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を聞き職員により受診、通院を行っている。併設の医療機関に必要時受診を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族には相談しながら受診を勧めているが、拒否されている。今後も折を見て家族にも認知症に関しての支援をしたい。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	今年2月までは訪問看護を利用していたが、休止になった為、併設の施設の看護師に支援を受けている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	併設病院に入院し対応をしている。スムーズに連携が出来る。又医師との情報交換も出来る。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には終末ケアについては説明をしている。状態の変化がある度に家族に説明をし併設の病院の医師に情報提供を行い対応をしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームの設備にも限界が有る為、利用者がより良く暮せる様、出来ない事も有る為併設の病院等に対応して頂く。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者が他の施設に移動した際は、細やかな情報提供に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人のパターンを理解し、無理の無い様声がけ誘導を行っている。又パットやナフキン等の装着も介助し、出来るだけオムツを使用しない様に対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の身体の能力の低下や、認知症の重度化により拒否することが多くなり再三の声かけにて対応している。又本人の希望が必ずしも優先でなく職員の判断を要している。(家族の希望もある為)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	認知症のレベルや年齢、体調を考慮し昼食後は一旦居室や思い思いの場所で休息を促したり、夜間はそれぞれの状況に応じて就寝している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の楽しみや役割を見つけ個々での買い物に出かけたり、入居者に出来る出番等の役割を見出している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが個人のレベルを考え開所当時より支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や入居者の体調に応じ日常的に散歩や、ドライブ、外食等を行い季節を感じて貰える様、積極的に戸外へ誘っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全体的には年齢、体調、認知症とレベルがダウンにより中々実行しにくく、家族との関わり方も声がけにかなりの配慮を要している。家族への協力の支援は行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には適宜に対応している。難聴の入居者には職員が代わりに電話をして家族との仲介をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等は決めておらずいつでも会えるよう配慮している。面会時には居室にお茶を運んだり、又希望の場所で過ごせる様声がけをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等を設け職員の周知を図っている。開所当初より行っておらず今後も研修会を行い身体拘束の無いケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が外に出そうな時はさりげなく、声を掛け一緒に付いて行き散歩したりして安全に配慮し自由に過ごせる様見守りしている。(各居室には鍵はついていない)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事務作業を行うも利用者と同じ空間で行い、全員の状況が把握出来る様努めている。日常的に居間で過ごすだけでなく、それぞれの居室を訪れたりしているため職員が目の届くところで活動している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険行為や不潔行為等に配慮し、日常的な観察を要し対応している。危険行為に対する理解度のレベルダウンが、著しい利用者には個別に観察状況判断し家族にも理解を仰ぎ物品の整理をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の行動パターンを十分に観察し考慮し、個別に危険を防ぐよう職員間で情報を共有して取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故報告やヒヤリハットの記録を職員の共有認識を図っている。又月1回法人によるリスクマネジメント部会に管理者が出席して報告を行い他の職種からアドバイスを受けている。報告書は全員が確認出来る様、回覧している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設や法人と合同にて避難訓練を行っており、ハイム独自で入居者と一緒に避難訓練をしたりしている。又運営推進会議の席でも町内会の方にも説明をし、災害時の避難協力を要請している。夜間の訓練もハイムだけで行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	職員は起こり得るリスクについて家族に定期的に連絡し説明をしている。家族にも理解をして頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の普段の状況を職員が把握しており、特に起床時や午前中のバイタルチェック時に体調の確認を行っている。異変時は併設施設の看護師や病院に掛かり早目の対応する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服確認は食前、食後に必ず口腔内投与、又は袋を切り手渡しし口に入れたのを確認している。一人一人の薬の処方箋を薬局より、貰い薬を管理している所に置いてある。又カルテの温度表の中にもチェックしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時の牛乳や摂取食物の野菜、水分量、一人一人の身体に合わせた運動が行える様に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食事後職員の見守り、声がけにて必ず歯磨きを行っている。義歯洗浄は就寝前職員が預かり消毒を行い朝渡している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好を考慮し献立に採り入れ栄養バランスにも考慮している。食事内容を書類に記録し一日の摂取量をおおまかに把握し定期的に併設の管理栄養士に見てもらいアドバイスを受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム内で起こり得る感染症についてマニュアルを作成し、講習会に参加したり、予防対策に努めている。インフルエンザは入居者、職員は全員接種している。又手洗い励行や入浴時の皮膚の観察等や、衣類の洗濯はまめに洗っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の研修会に参加し、その他の職員は資料を渡し再確認をしている。マニュアルを確認して対応している。衛生面ではまな板や洗い桶は毎晩漂白剤に漬け、布巾等は毎食後に取り替えて洗濯を行っている。調理器具、冷蔵庫の中の食材等管理点検しマニュアル通りに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周囲が併設の施設がありホームも普通の家の作りでない為、玄関に車を駐車している。入り口にはベンチを置いたり、自転車を置いたりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事や食事は、意識的に取り入れて季節感を味わっている。居間の飾り付けや配置は入居者が不快にならない様心地良く過ごせる様考慮している。季節を考慮した壁画の飾り付けを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	開所当初より各スペース保持に努め、思い思いに、過ごせる様に、又過ごしている時は見守り等に配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は入居者の心地良さに配慮しその人らしく過ごせる様、居室には写真や馴染みの家具や物を置いてある。又神棚や仏壇も置いてあり朝夕に参拝している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日常的に空気の入替えを行っている。室内にも換気扇が常時付けられており、外気との温度差がある時は、入居者の様子を見ながら調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事時のテーブル席は居室より出やすい場所等、危険防止に留意し安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の能力を職員は十分に理解共有し、予め混乱したり失敗をしやすい様な場面にならない様配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先は併設の職員の出入りの玄関があるため職員より声がけをして貰っている。ベランダでは日向ぼっこしたり涼んだり畑をいじったり思い思い楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)